四国遍路道研究会報告（第８回）

四国遍路みちにおける、「へんろ転がし」の工学的研究

四国遍路みち研究会

・県道147号～第60番横峰寺の現地調査報告

（第８回現地調査 H22.07.10）

湯浪休憩所

平成22年7月10日夏場の調査である。今回は、車移動の関係もあり、定員一杯の7名での調査。事故とマムシ及び熱中症等に気をつけて、弘済会を8時に出発し、いよ小松ICから国道11号経由の県道147号を南下し終点手前の「四国のみち」の湯浪休憩所に10時前に到着。この開放的な休憩所のベンチに積み上げられたフトン類と雑記用ノートが目に入った。ここで野宿をする人がいるのだろうかとか、粗大ごみの放置跡だとかワイワイガヤガヤ、先を急いでおり深い詮索はせず、10時頃から、横峰寺への登り口である法面の整備された県道横の40数段ほどの階段を登り始める。

横峰寺への登り口

今の標高が大方300mであり横峰寺（標高770m）まで2.2km、標高差約450mの調査開始である。

階段途中に「二十丁」の舟形地蔵丁石がある。調査の進展に伴い丁石も適度に設置されており「十九丁」石のある箇所では、左側は美しい渓谷だが、倒竹が多く景観を台無しにしているのは残念、右側は枝打ち済みの杉林。さらに登っていくと「十四丁」と「十三丁」石の間に岩伝いに流れる10m程度の小滝がある。これを過ぎると、調査し始めてから３橋目となるコンクリート橋があった。高欄は自然石を活用。この橋は潜水橋の機能を持たせているのか、他に橋面を石張りした橋等があった。また、丸太を渡し足の踏板のみ付けた構造で高欄が破損し、かなり危険と思われるものが２橋あった。このへんろ道は、谷川を縫うようにして登ることから大雨や台風時の豪雨ではかなり苦労する遍路泣かせのルートと

推察できる。

出水のほかにも、「へんろ転がし」がある。平均勾配が20数%程あり、谷川と並走することから岩盤露出のゴロゴロ道で勾配30%強のところもある。「九丁」石の手前に「文政二年」(1819年)と刻まれた遍路墓らしきものがあり、さらに登ると「四丁」石付近に「天保十四」(1843年)等の年号が読み取れる7基ほどの遍路墓が見受けられた。

「へんろ転がし」が災いしたのだろうか。

コンクリート橋

「従峯三丁」道標の急坂を登り、山門手前の大杉の横を通り、「へんろ転がし」とおぼしき丸太土止の階段がきつい。それでも現地調査をこなしながら、標高738mの横峰寺山門にお昼前に到着。

お昼になってのお弁当で盛り上がり、しばしの談話と体力増強後、帰路調査に向けて61番香園寺奥之院方向のみちに移動する。ちなみに出口の東門の標高は770mある。調査終点の5.3km(駐車場)まではほとんど下り坂で、「従峯一丁」の道標、横峰寺の駐車場入り口に「従峯二丁」、寺より1.5km下ったところに「従峯十丁」がある。地元で「おこや」と呼んでいる寺より3.6kmの分岐点に「(手印)香園寺道奥之院ヲ経テ一里十六丁/(手印)香園寺へ一里二十丁/施主　長崎市引佐町　吉田シマ」の石道標と、「四国のみち」の木製の標識がある。この分岐点を香園寺奥之院のある方に下っていくなだらかな道が続いたが、終点付近で標高差140mの急坂の一気下り、調査終点付近で標高175mとなっており、横峰寺との高低差約560mであった。終点の駐車場には2時半頃到着し、まだまだ暑さの厳しい伊予路を高松に引き返した。

石高欄橋

橋面石張橋

(参考文献:愛媛県生涯学習センター「愛媛の記憶」)

山門　横峰寺